

第2回 古市古墳群 古墳の濠に暮らす鳥たち 2023年2月18日(土) 明日2月19日は大阪支部の発足記念日!

9:00 近鉄南大阪線・藤井寺駅 南出口 集合 12:30 峰塚公園(峯ヶ塚古墳)解散

- ・大阪支部(当時は、阪神支部)の発足前日にあたる1937(昭和12)年の2月18日、中西悟堂と榎本佳樹が古市古墳群周辺を探鳥した記録が「野鳥」誌(昭和12年4月)に悟堂の紀行文「大阪市近郊の半日」として掲載されている。
- ・当時中西悟堂41歳、榎本佳樹63歳、まだ仲哀天皇陵周辺は住宅もまばらで、のどかな田園風景が広がっていた。
- ・先人たちの往時の鳥見を想像しながら、ゆっくり古墳を巡りましょう。



中西悟堂



榎本佳樹



仲哀天皇陵

1937年に確認された鳥18種

トビ、カイツブリ、コカワラヒワ、カラス、アオジ、スズメ、モズ、マガモ、ヒヨドリ、ホオジロ、キセキレイ、ヒバリ、アオサギ、ノジコ、コガモ、ツグミ、オシドリ、ビンズイ

2013年2月17日

大阪支部75周年記念探鳥会を同地で開催し、偉大な先人が歩いた古市古墳群を訪ねた。

50人の参加者が集まり、57種の鳥に出会えた。支部の歴史に残る意義深い探鳥会となった。

確認リストは裏面



榎本氏の説明によると、この御陵ではオシドリ、トモエガモ、ゴイサギが見られ、またアオサギが営巣したこともあるそうである。私たちはほど近い応神天皇の御陵へと向かった。

濠に沿うてまがると御陵参拝所がある。石垣をめぐらし、小さい鉄の門をあしらい、黒松にかこまれているが、そのあたりには葡萄の棚があり、棚の下には豆畑などがある。モズが飛び、ホオジロが鳴き、草がくりの水のほとりからキセキレイが舞い立っては、深い波状に飛ぶのであった。またしても雲を背中にトビの帆翔。

仲哀天皇の御陵の濠には二十六羽のマガモがいた。濠の向う側にいるのを遠くからみると頭が黒く、背面が白く、この黒白の染分けのように見えるが、水脈をひいてこちらへ近づくと頭が黒く、嘴の鮮やかな黄と光沢のある青緑色の頭とが、色鉛筆で塗りたてたように見え、離水して飛ぶうしろ姿では翼を横につらぬく二筋の白い線がくっきりと目立つ。雌雄を数え分けてみると、いずれも十三羽ずつで完全な pair となっている。

二月十八日午後の半日を、関西野鳥学の大先輩榎本佳樹翁、若年の野鳥観察家平岩康照君と、大阪郊外の鳥を見てまわった。例年になく暖かいこの頃の日ざかりの郊外は、日の照っているあいだは春のようなごやかで、温度は摂氏八度くらいかと思われたが、午後四時ごろから曇り出してからは、さすがに気温の低下が肌感じられる冬枯れの野づらだった。鳥のほうは三人打ちつれての視察だから、文字どおり風つぶしで、一羽も見逃すことはなかったと思うが、季節がら鳥種は多いとは言えなかった。

大阪市郊外の半日

— 昭和十二年二月十八日 —

野鳥
昭和12年
4月号から
一部抜粋

藤井寺市から羽曳野市にかけて4km四方の範囲に広がる古市古墳群は、堺市にある百舌鳥古墳群とともにわが国を代表する古墳群です。古市古墳群は、前方後円墳31基、円墳30基、方墳48基、墳形不明14基、計123基から構成され、群中には墳丘長200mを超える巨大な前方後円墳6基を含んでおり、4世紀後半から6世紀中葉に形成されたことが知られます。令和元(2019)年に我が国初の世界文化遺産として登録されました。

世界文化遺産である古墳群は、野鳥の貴重な生息環境でもあります。古墳の堀は多くのカモ類が越冬のために利用しています。

本日の担当：納家 仁、塚田順一、上村 賢 皆さんで楽しい探鳥会にしましょう!

榎本佳樹翁にならい、しらみつぶしで1羽もみのがさないを目指そう!